

③-2 北側壁面追加はぎとり転写試料-線構造の解釈(2/5)-



はぎとり転写試料 写真(左右反転)(解釈線なし)

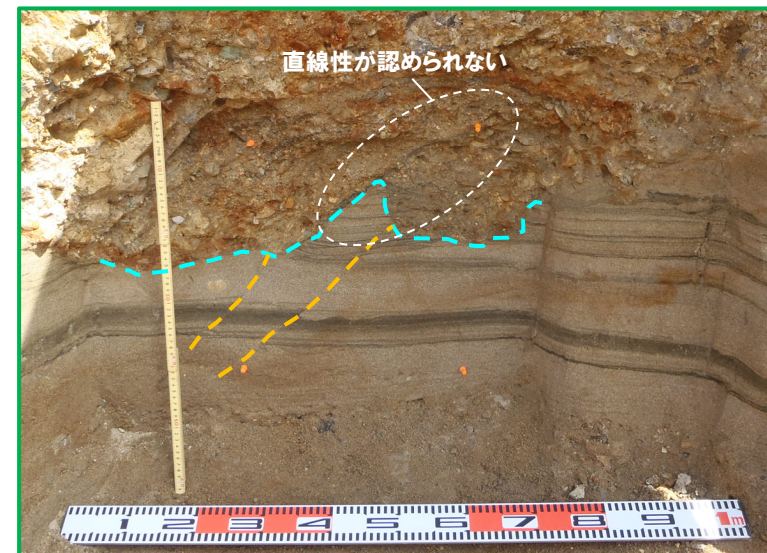
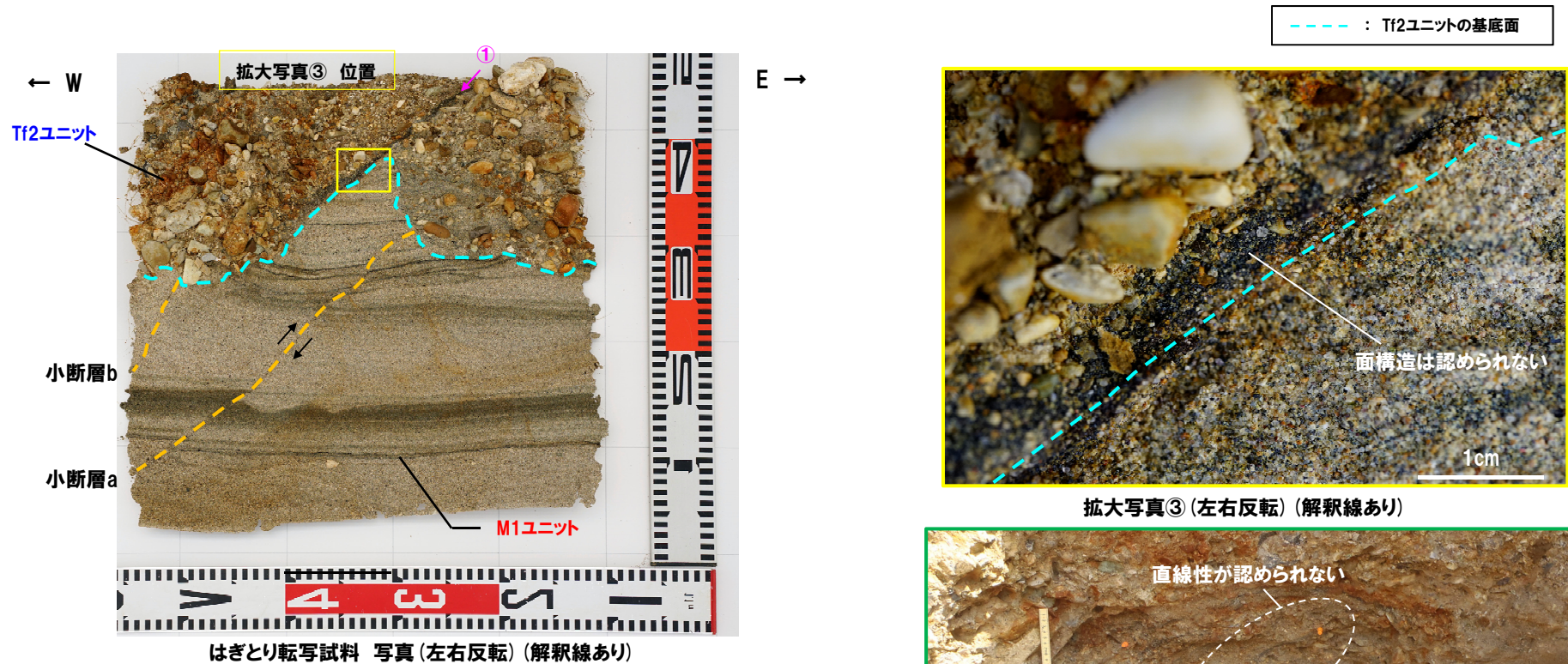


拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

③-2 北側壁面追加はぎとり転写試料-線構造の解釈 (3/5) -



※壁面写真位置は、P258～P259参照

③-2 北側壁面追加はぎとり転写試料-線構造の解釈(4/5)-



はぎとり転写試料 写真(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真③(左右反転)(解釈線なし)

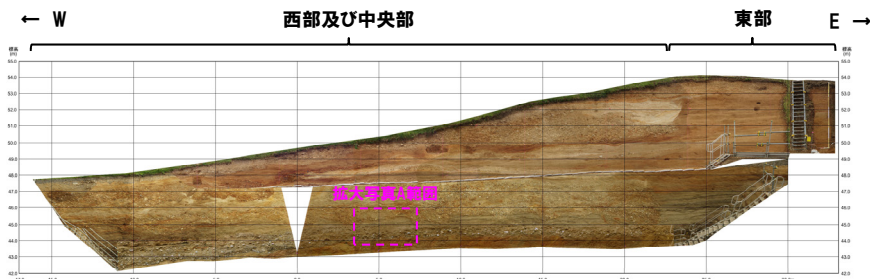


壁面写真*(解釈線なし)

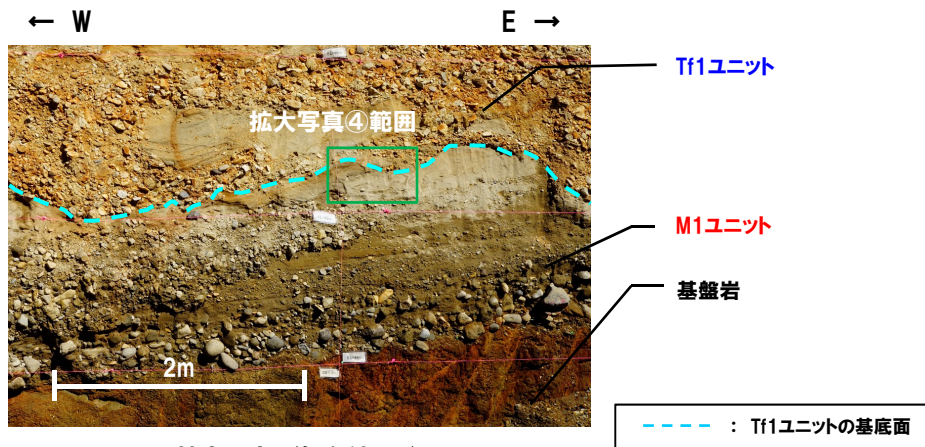
※壁面写真位置は、P258～P259参照

③-2 北側壁面追加はぎとり転写試料-線構造の解釈 (5/5) -

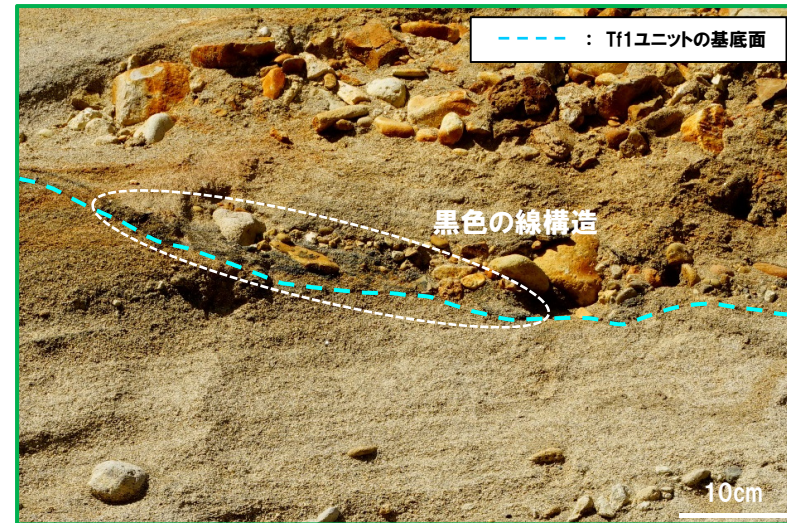
○北側壁面のTf1ユニット基底面付近にも、P264の①と同様な黒色の線構造が認められる。



開削調査箇所(北側)北側壁面写真



拡大写真A (解釈線あり)



拡大写真④ (解釈線あり)



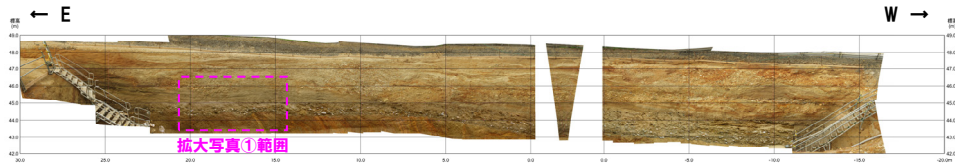
拡大写真④ (解釈線なし)

余白

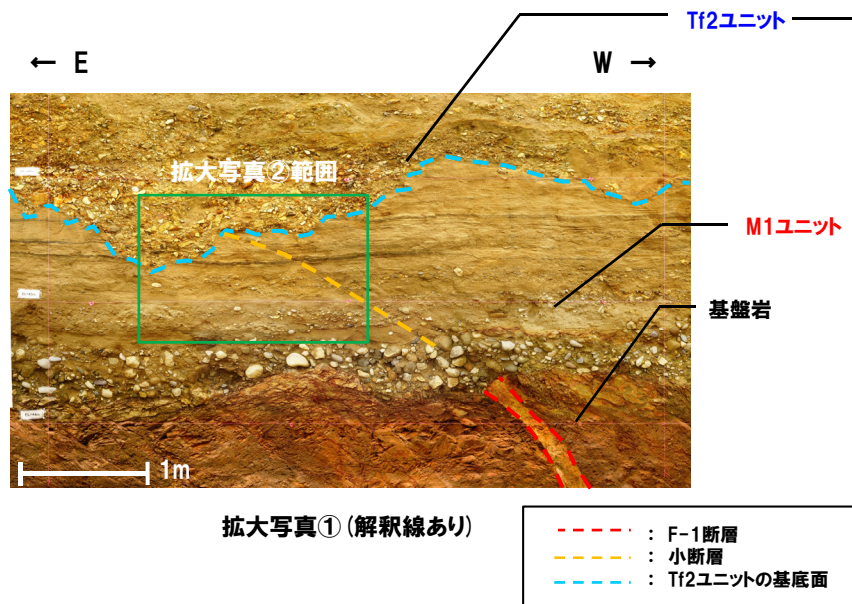
④小断層上端付近の詳細観察-南側壁面追加はぎとり転写試料(1/4)-

(南側壁面追加はぎとり転写試料)

- F-1断層に関連する小断層上端部とTf2ユニットとの関係を明確にするためのデータ拡充を目的として、R1.11.15現地調査時の壁面から奥行き方向に掘削を行い、M1ユニット及びTf2ユニットの層相境界付近において、露頭観察及びはぎとり転写試料を作成し、地質構造の観察を実施した。
- 南側壁面追加はぎとり転写試料は、R1.11.15現地調査時の壁面から約60cm奥行き方向で作成したものである。
- 本はぎとり転写試料は、データ拡充に当たっての条件((1)M1ユニットにおいて、小断層による葉理のズレがTf2ユニットの基底面直下で認められること及び(2)Tf2ユニットは砂礫層であるため、Tf2ユニットの基底面直下の変位量が小さい場合においても、小断層による変位・変形の有無が確認できる比較的細粒な層相を呈すること)を満たすF-1断層に関連する小断層上端部とTf2ユニットとの関係がより明確に確認できる断面である。

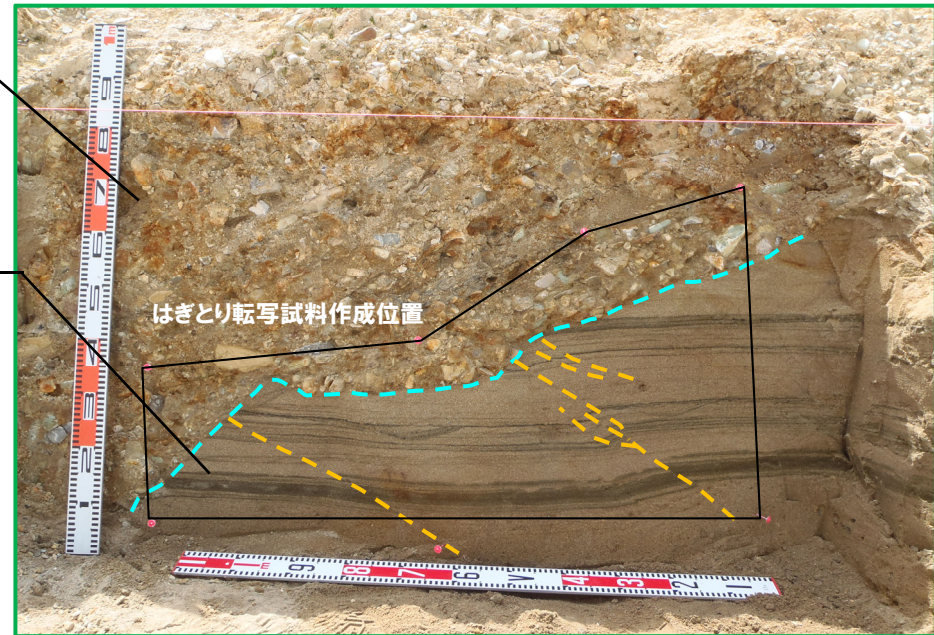


開削調査箇所(北側)南側壁面写真



拡大写真①(解釈線あり)

- : F-1断層
- : 小断層
- : Tf2ユニットの基底面

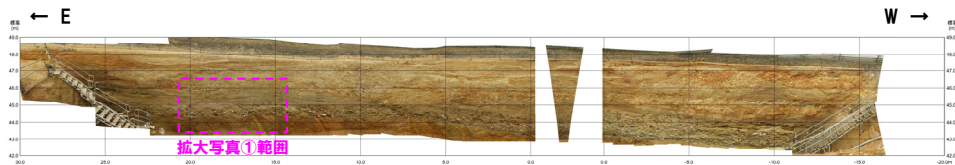


拡大写真②(解釈線あり)

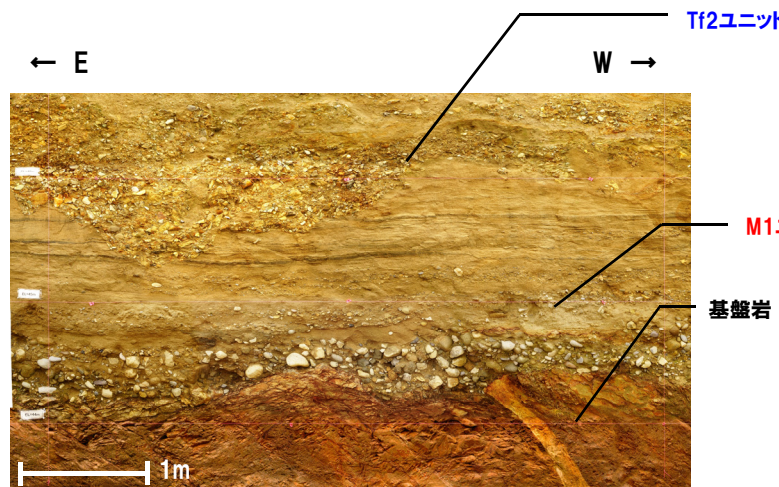
拡大写真①は、R1.11.7審査会において提示したはぎとり転写試料作成前の写真を案内図として用いている。

3.1 小断層の影響範囲に関する検討(開削調査箇所(北側))

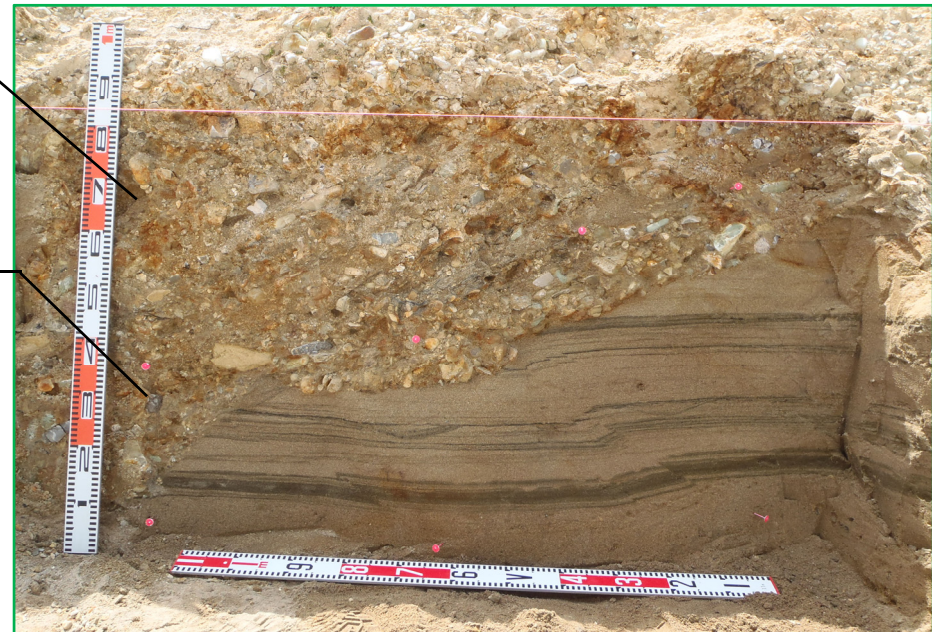
④小断層上端付近の詳細観察-南側壁面追加はぎとり転写試料(2/4)-



開削調査箇所(北側)南側壁面写真



拡大写真①(解釈線なし)



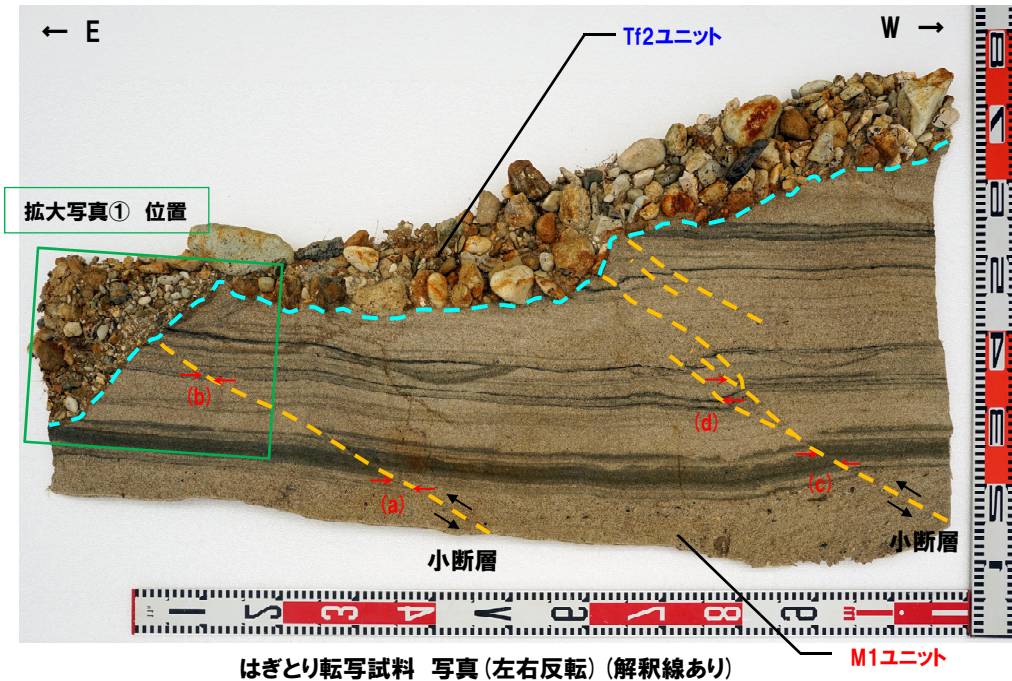
拡大写真②(解釈線なし)

拡大写真①は、R1.11.7審査会合において提示したはぎとり転写試料作成前の写真を案内図として用いている。

④小断層上端付近の詳細観察-南側壁面追加はぎとり転写試料(3/4)-

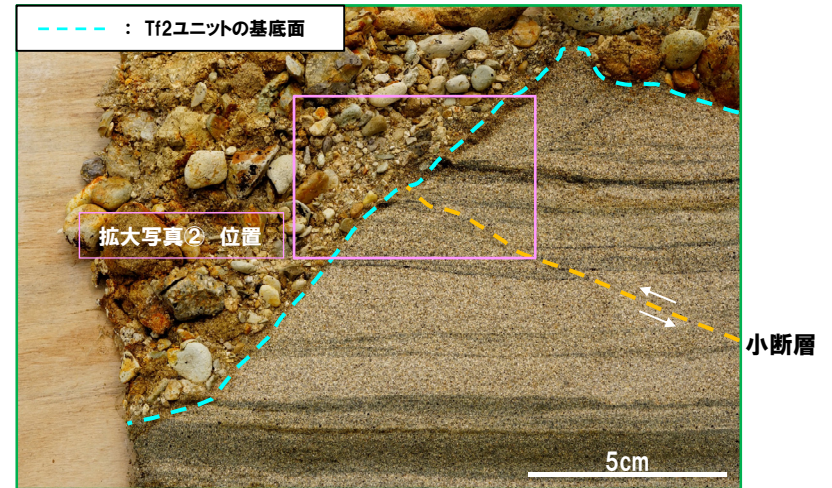
【観察結果】

- 本はぎとり転写試料は、データ拡充に当たっての条件((1) M1ユニットにおいて、小断層による葉理のズレがTf2ユニットの基底面直下で認められること及び(2) Tf2ユニットは砂礫層であるため、Tf2ユニットの基底面直下の変位量が小さい場合においても、小断層による変位・変形の有無が確認できる比較的細粒な層相を呈すること)を満たすF-1断層に関連する小断層上端部とTf2ユニットとの関係がより明確に確認できる断面である。
- F-1断層に関連する小断層は、M1ユニットに変位を与えており、Tf2ユニットの基底面直下まで剪断面が連続し、変位が認められる。
- 小断層に顕著な見かけ変位量の減衰は認められない。
- Tf2ユニットの基底面に、小断層による変位は認められない。
- Tf2ユニットに、剪断面は認められない。
- Tf2ユニット中の礫は、基底面(チャネル壁)に沿って比較的定向配列しており、堆積構造の乱れは認められない。

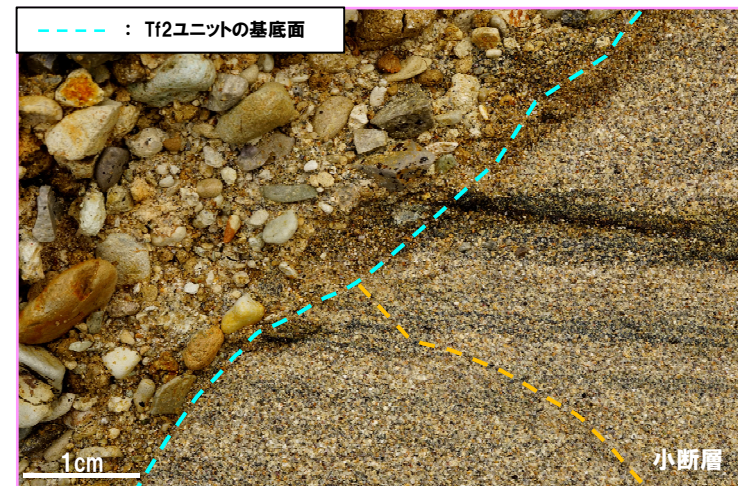


← :見かけ変位量の計測箇所(砂層中の葉理のズレ)

見かけ変位量 : (a) 約24mm, (b) 約12mm
(c) 約21mm, (d) 約25mm

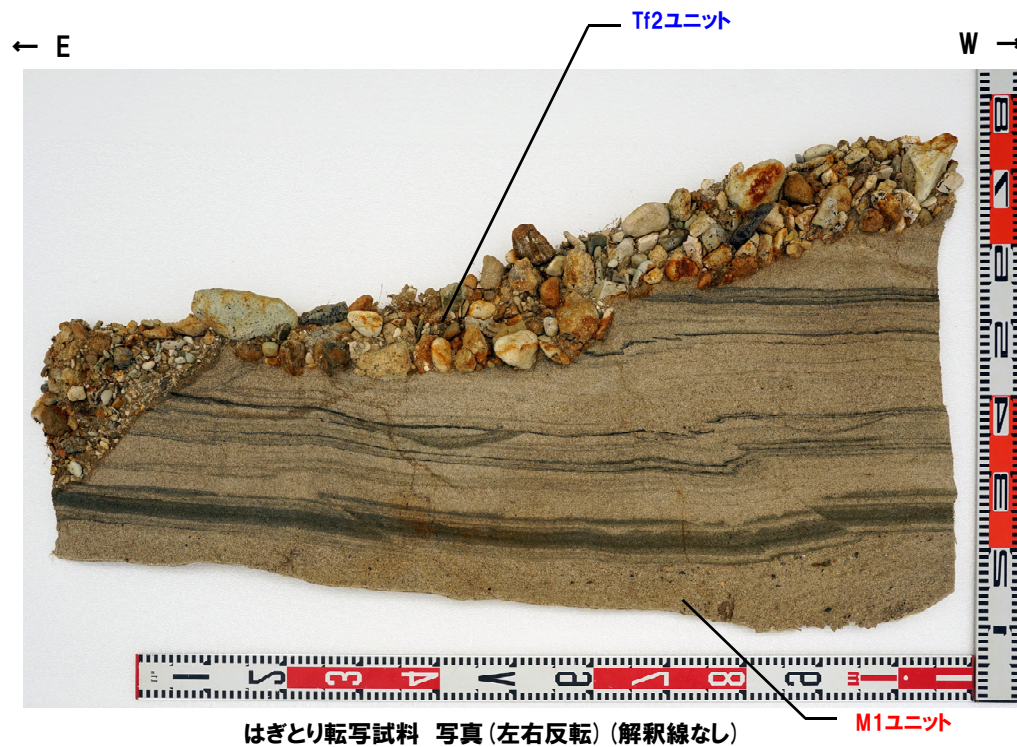


小断層上端付近 拡大写真①(左右反転)(解釈線あり)



小断層上端付近 拡大写真②(左右反転)(解釈線あり)

④小断層上端付近の詳細観察-南側壁面追加はぎとり転写試料(4/4)-



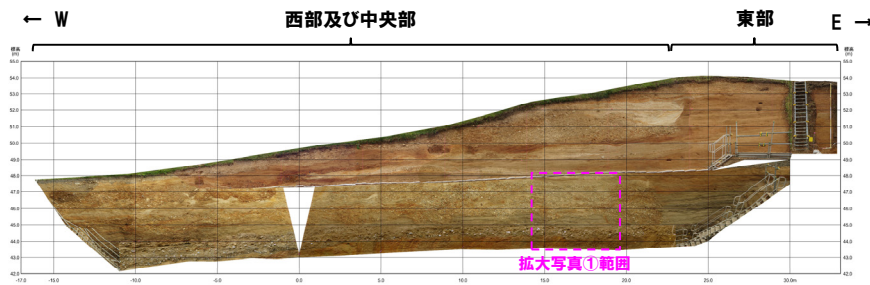
小断層上端付近 拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



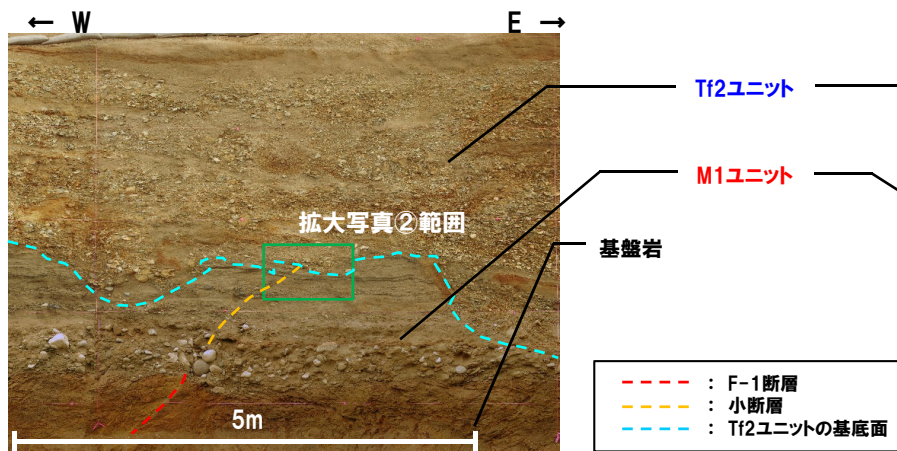
小断層上端付近 拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

(参考) 小断層上端付近の詳細観察-北側壁面(1/4)-

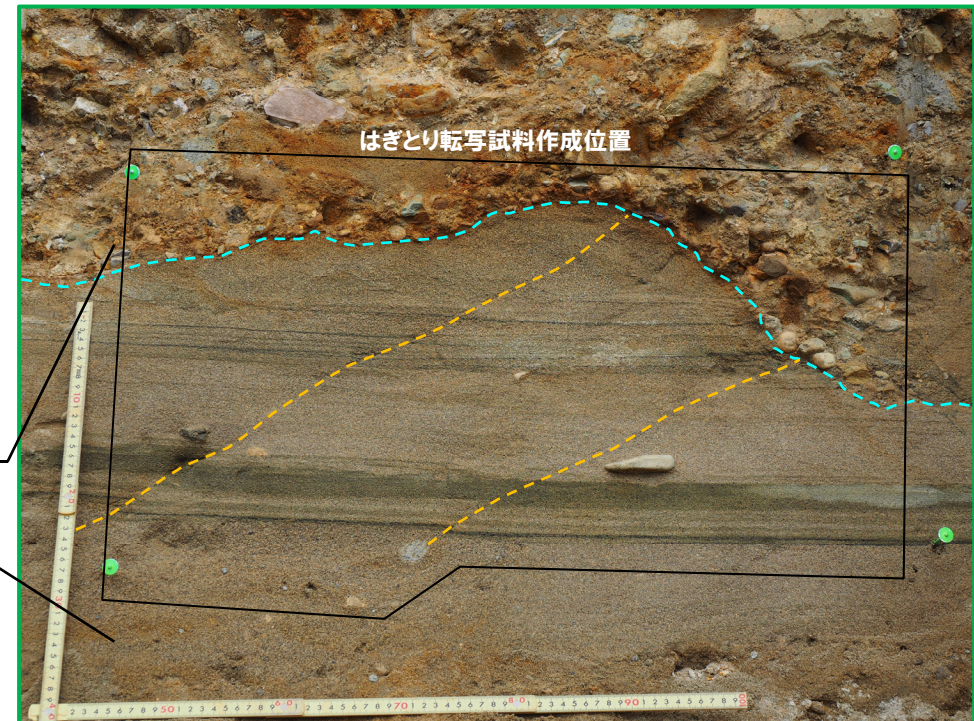
- F-1断層に関連する小断層上端部とTf2ユニットとの関係を明確にするためのデータ拡充を目的として、R1.11.15現地調査時の壁面から奥行き方向に掘削を行い、M1ユニット及びTf2ユニットの層相境界付近において、露頭観察及びはぎとり転写試料を作成し、地質構造の観察を実施した。
- 本はぎとり転写試料は、R1.11.15現地調査時の壁面を再整形した断面において作成したものである。
- 本はぎとり転写試料は、前述の条件のうち(1)M1ユニットにおいて、小断層による葉理のズレがTf2ユニットの基底面直下で認められることを満たしていないが、参考として掲載する。



開削調査箇所(北側)北側壁面写真



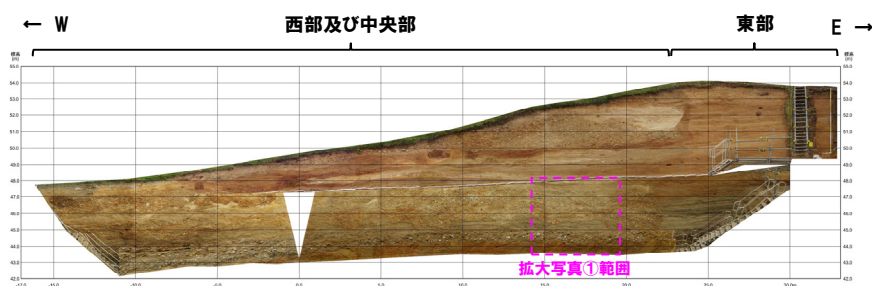
拡大写真①(解釈線あり)



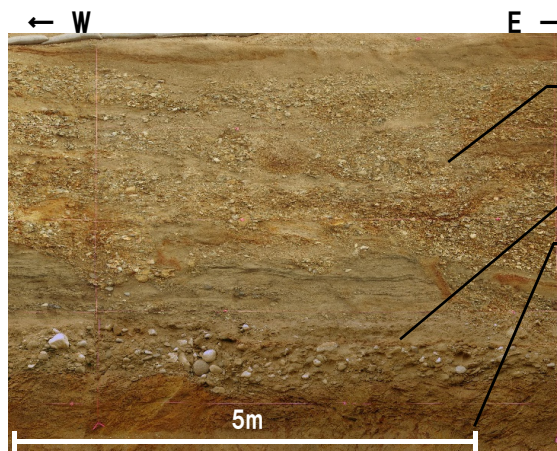
拡大写真②(解釈線あり)

拡大写真①は、R1.11.7審査会合において提示したはぎとり転写試料作成前の写真を案内図として用いている。

(参考) 小断層上端付近の詳細観察-北側壁面(2/4)-



開削調査箇所(北側) 北側壁面写真



拡大写真①(解釈線なし)

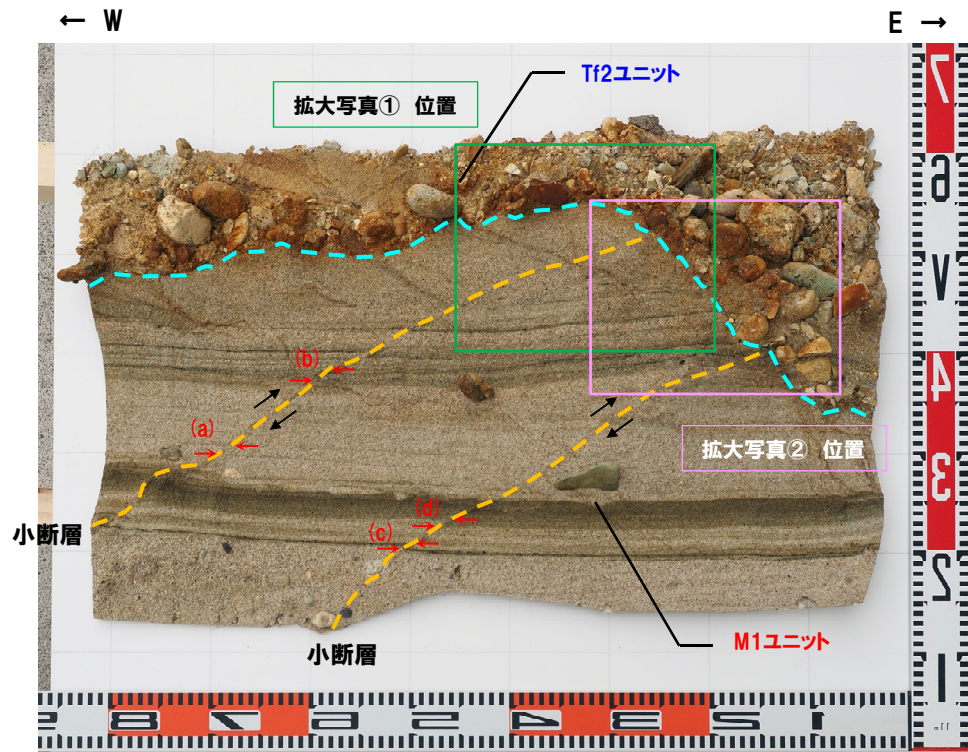


拡大写真②(解釈線なし)

拡大写真①は、R1.11.7審査会合において提示したはぎとり転写試料作成前の写真を案内図として用いている。

(参考) 小断層上端付近の詳細観察-北側壁面(3/4)-

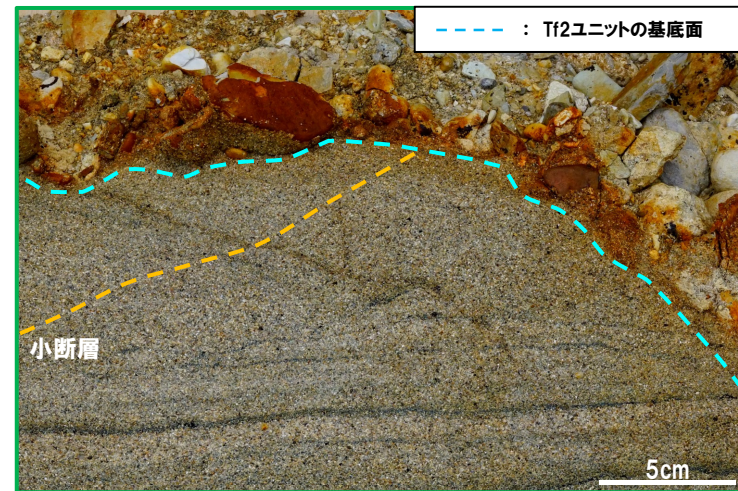
- F-1断層に関連する小断層は、M1ユニットに変位を与えており、Tf2ユニットの基底面直下まで剪断面が連続し、変位が認められる。
- 小断層に顕著な見かけ変位量の減衰は認められない。
- Tf2ユニットの基底面に、小断層による変位は認められない。
- Tf2ユニットに、剪断面は認められない。
- ただし、本はぎとり転写試料は、前述の条件のうち(1)M1ユニットにおいて、小断層による葉理のズレがTf2ユニットの基底面直下で認められることを満たしていないが、参考として掲載する。



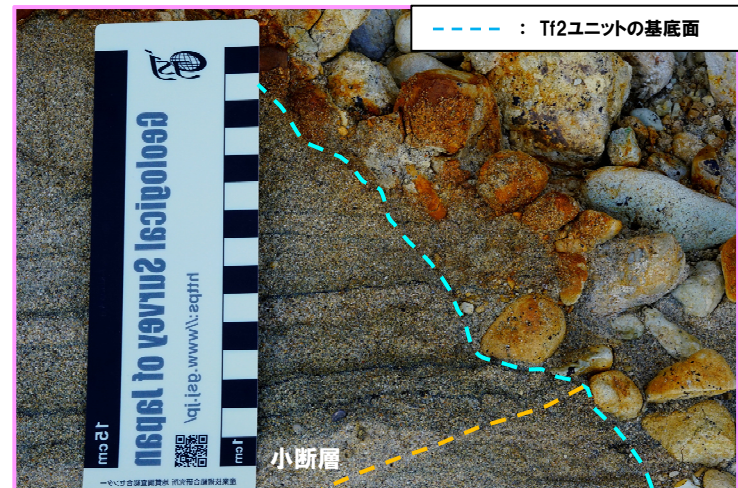
はぎとり転写試料 写真(左右反転)(解釈線あり)

- 見かけ変位量：(a) 約12mm
 (b) 約10mm
 (c) 約8mm
 (d) 約9mm

← : 見かけ変位量の計測箇所(砂層中の葉理のズレ)

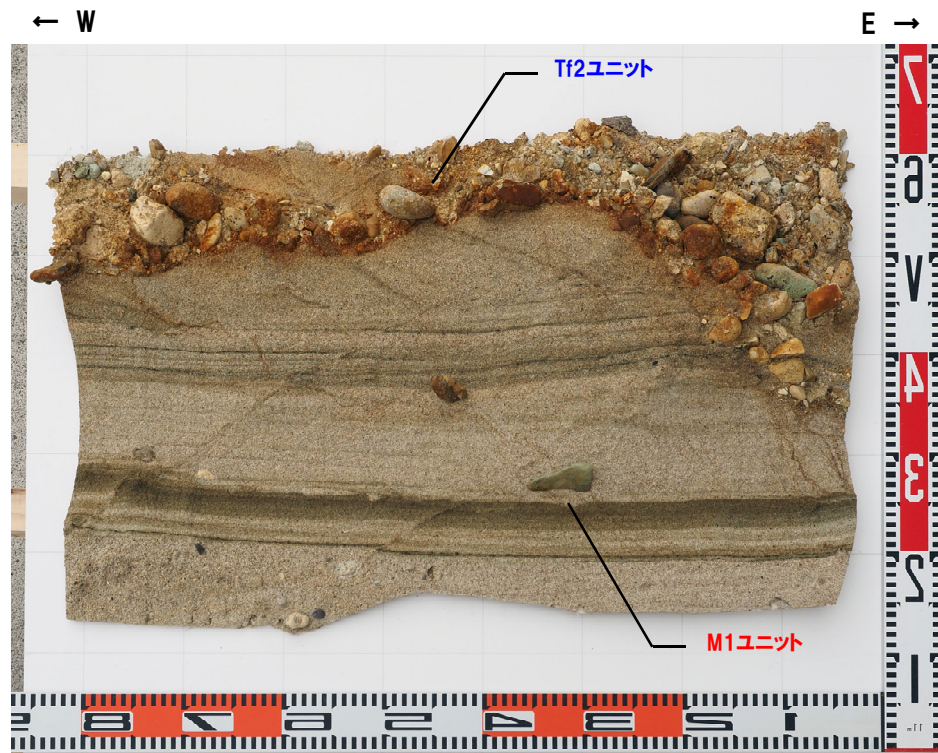


小断層上端付近 拡大写真①(左右反転)(解釈線あり)



小断層上端付近 拡大写真②(左右反転)(解釈線あり)

(参考) 小断層上端付近の詳細観察-北側壁面(4/4)-



はぎとり転写試料 写真(左右反転)(解釈線なし)



小断層上端付近 拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)

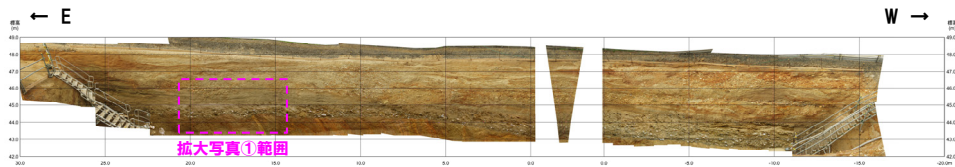


小断層上端付近 拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

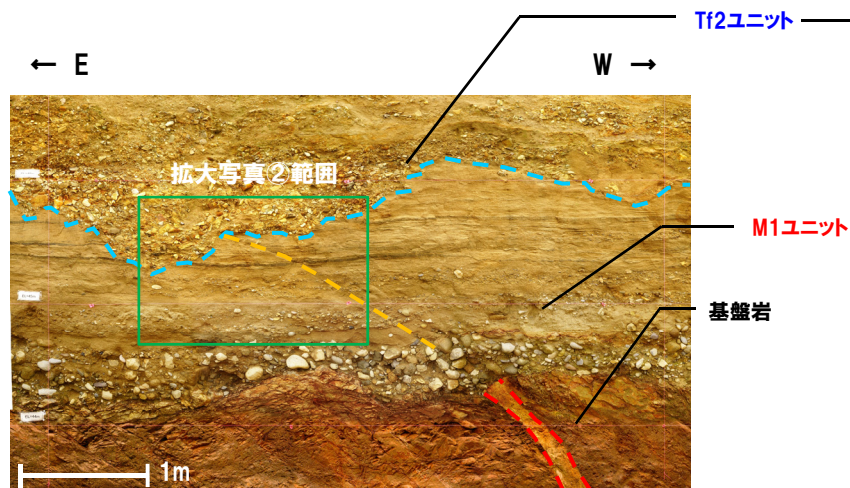
3.1 小断層の影響範囲に関する検討(開削調査箇所(北側))

(参考) 小断層上端付近の詳細観察-南側壁面(1/5)-

- F-1断層に関連する小断層上端部とTf2ユニットとの関係を明確にするためのデータ拡充を目的として、R1.11.15現地調査時の壁面から奥行き方向に掘削を行い、M1ユニット及びTf2ユニットの層相境界付近において、露頭観察及びはぎとり転写試料を作成し、地質構造の観察を実施した。
- 本はぎとり転写試料は、R1.11.15現地調査時の壁面を再整形した断面において作成したものである。
- 本はぎとり転写試料は、前述の条件のうち(1)M1ユニットにおいて、小断層による葉理のスレがTf2ユニットの基底面直下で認められることを満たしていないが、参考として掲載する。



開削調査箇所(北側)南側壁面写真



拡大写真①(解釈線あり)

- - - : F-1断層
- - - : 小断層
- - - : Tf2ユニットの基底面



拡大写真②(解釈線あり)

拡大写真①は、R1.11.7審査会において提示したはぎとり転写試料作成前の写真を案内図として用いている。